

分子生物学科セミナー

# ゲノムからさぐる 日本列島人の歴史

さいとう なるや  
齋藤 成也

国立遺伝学研究所 集団遺伝研究部門  
総合研究大学院大学 生命科学研究科 遺伝学専攻

日本列島には、4万年ほど前から人間の住みついていたことが、石器の研究からわかっている。当時は氷河時代だったため、海面が現在よりも低く、列島と大陸は近接していたので、移動が現在よりも楽だったと考えられる。その後、16000年前ごろに縄文式土器の使用がはじまり、考古学ではそれ以降およそ3000年ほど前、弥生時代のはじまりまでを縄文時代とよぶ。われわれは、縄文時代末期に現在の福島県北部に住んでいた縄文人の歯からDNAを抽出し、核ゲノムの1億1500万塩基を決定した。これらのゲノム配列を他のゲノム配列と比較した結果、縄文人の祖先は現在の東ユーラシア人が拡散する前、おそらく2万年以上前に、その祖先集団から分岐していたと推定した。また、ヤマト人（列島中央部に居住する典型的な日本人）が縄文人から受け継いでいるゲノムは全体の20%弱だと推定した。これまでの定説である「二重構造モデル」によれば、残りの80%以上は、弥生時代以降に大陸から渡来した人々とその子孫から伝えられたことになる。ところが、ヤマト人のゲノム多様性をこまかく調べると、その中にさらに内なる二重構造の存在する可能性がでてきた。地理的には、九州北部から関東地方までを貫く日本列島中央軸とその周辺に対応する。これは、弥生時代以降に遺伝的に異なる2集団がそれぞれ日本列島に渡来した結果なのか、あるいはすこし異なる時代的に2系統の集団が渡来した結果と考えられる。本セミナーでは、現在進行中のこれらの研究成果を紹介する。

**日時：8月31日(水) 16:20～17:50**  
**場所：11番教室(理学部3号館2階)**

学部集中講義「ゲノムから見た生物進化」(R14265「分子生物学特別講義IV」)の一部ををセミナーとして公開していただきます。講義の一部ですから、集中講義を履修する学部学生は必ず聴講することになります。埼玉大学ではなかなか聴く機会のないような内容ですから、集中講義を履修しない学部学生・大学院生や教員の皆さんも、ぜひ参加してください。

このセミナーに関する質問などは、世話人 原 弘志 (理学部3号館5階3507号室  
内線 4307 外線 048-858-3775  
E-mail hhara@mail.saitama-u.ac.jp) まで